

# 『Windows XP サポート終了』

宮杉 浩

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これからの大学生活において、日頃の勉強、レポートの作成などで図書館をおおいに活用してください。

さて、4月8日に長年に渡ってパソコンのOSとして広く親しまれたMicrosoft社のOS、Windows XPのサポートが終了しました。サポートの終了はすなわちそのソフトの役割の終わりを意味します。今回はWindows XPについてお話ししましょう。

まず、そもそもサポート終了がなぜ役割の終わりを意味するのかを説明します。今や世界中のほとんどのパソコンがネットワークによって繋がっている現在、そのパソコンを守るためのセキュリティ対策はとても重要なものです。OSのセキュリティ対策もそのリスクの多様化に対応すべくOSの提供メーカーから定期的にアップデートがなされています。メーカーによるサポートが終了するということは、新たなリスクに対する対策が今後そのOSに関してなされないということなのです。リスクに対応できないパソコンを利用し続けることは決して得策とは言えません。また新しいアプリケーションソフトは古いOSに対応していないというケースが多いのです。ですので、サポートが終了したOSはその役割を終えたと言えるのです。

Windows XPは2001年にそれまでの家庭向けOS、Windows 9x系とビジネス系OS Windows NT系を統合したOSとして発表され、その利便性の良さから広く利用されるようになりました。後継OSのWindows Vista (2006年)、Windows 7 (2009年)、Windows 8 (2012年)、8.1 (2013年)と次々に発表される中でも幅広い支持を受け、発表から10年以上経過した2013年12月の時点でも全世界におけるシェアはWindows 7に次ぐ2位というものでした。実際2007年の時点で一度サポート終了がアナウンスされていたのですが、シェアの広がりや社会への影響を鑑みて、今日まで延長されていたのです。12年以上のサポートというのは移り変わりの激しいパソコン業界のサポートとしては異例とも言えます。さらに、実際XP以降のOS搭載した新機種が登場しても、XPダウングレードサービスを実施して、XPを求めるユーザーへの対応を各メーカーが図っていたほどなのです。

図書館においても、事務用端末として、また利用者用端末としても図書館システムを安定して稼働させてくれるOSとして長年に渡って活躍していましたが、昨年夏の機器入れ替えでXP端末は姿を消しました。各種アプリケーションソフトの機能向上、ネット環境へのセキュリティを中心とした対策がXPの機能では既に対応できないものとなっていた以上やむを得ないことなのですが、一抹の寂しさを感じずにはいられませんでした。

技術の進歩が早いパソコン業界において、10年以上もの長期にわたるサポートが必要とされるくらい皆に親しまれたWindows XPというOSはきっとパソコンの歴史の中に大きくその名を残すことでしょう。Windows 8.1以後継のOSたちがここまでの支持を得られることができるのか、今後注目していきたいと思えます

みやすぎ ひろし (係長補佐・管理運営課)